

林兼産業株式会社

2012年3月期 決算説明資料

決算概況と2ヵ年経営計画

2012年5月15日

I 2012年3月期実績

連結損益計算書の概要	… 3
経常利益の増減要因	… 4
セグメント別の売上高・営業利益	… 5
貸借対照表の概要	… 6
キャッシュ・フロー計算書の概要	… 7
四半期業績の推移	… 8
セグメントの状況	… 9-11

II 2カ年経営計画

前中期経営計画の振り返り	… 13
2カ年経営計画	… 14
最適化イメージ	… 15
セグメント施策	… 16-21
売上高・利益計画	… 22-23
今後の施策	… 24-25

I

2012年3月期実績

連結損益計算書の概要

(百万円)

	2011年3月期実績	2012年3月期 通期実績			
		実績	前年増減	2011.11業績予想	業績予想増減
売上高	51,433	48,314	▲3,118	50,000	▲1,685
営業利益	276	614	338	400	214
経常利益	185	560	374	320	240
当期純利益	▲289	▲894	▲604	180	▲1,074

前期との主な変動要因

売上高 連結子会社の減少および畜産用飼料や水産物の販売数量の減少により減収

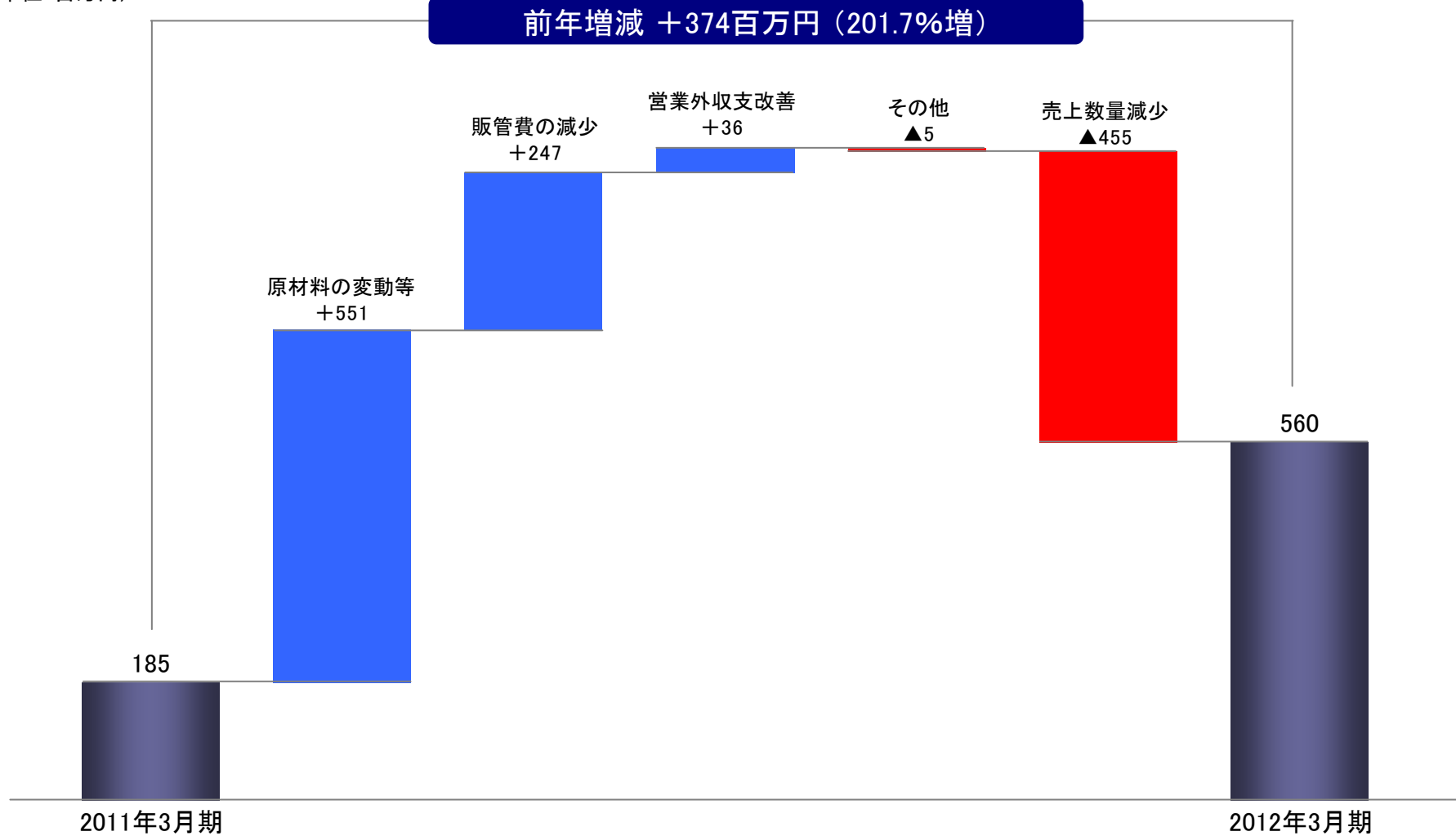
営業利益 主原料価格の安定推移および販管費の減少により増益

当期純利益 下関飼料工場での畜産用飼料製造中止に伴う損失 345 百万円
平成24年6月を目処に下関飼料工場での畜産用飼料の製造を中止し、中止事業に係る設備等の資産につき、連結および個別決算において特別損失を計上。

貸倒引当金の計上 781 百万円
飼料事業の取引先等の債権に対して貸倒引当金の追加計上を実施。

主原料価格の安定推移、販管費の減少により増益

(単位:百万円)



セグメント別の売上高・営業利益

(百万円)

	2011年3月期実績	2012年3月期 実績			
		実績	前年増減	2011.11業績予想	業績予想増減
売上高	51,433	48,314	▲3,118	50,000	▲1,685
水産食品事業	6,276	4,970	▲1,306	5,500	▲529
畜産食品事業	19,218	18,495	▲723	18,900	▲404
飼料事業	23,790	22,734	▲1,055	23,400	▲665
その他の事業	2,147	2,114	▲32	2,200	▲85
営業利益	276	614	338	400	214
水産食品事業	359	209	▲149	310	▲100
畜産食品事業	396	343	▲53	350	▲6
飼料事業	585	971	386	810	161
その他の事業	155	168	13	90	78
消去又は全社	▲1,220	▲1,078	142	▲1,160	81

貸借対照表の概要

(百万円)

	2011年3月期末	2012年3月期末	
			前年増減
流動資産	12,587	12,496	▲90
固定資産	14,919	14,721	▲197
資産合計	27,506	27,218	▲288
流動負債	16,345	15,819	▲526
固定負債	6,277	7,301	1,024
負債合計	22,622	23,120	498
純資産合計	4,884	4,097	▲786
負債純資産合計	27,506	27,218	▲288

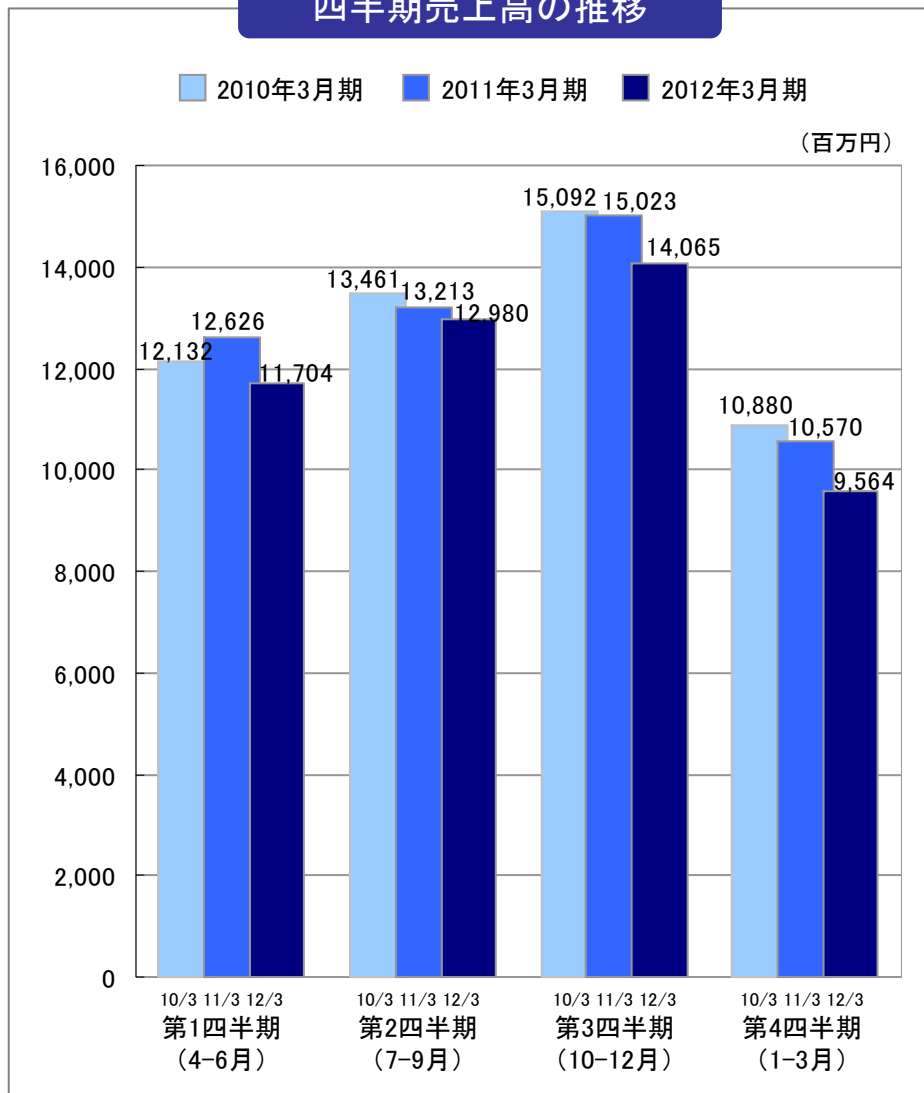
キャッシュ・フロー計算書の概要

(百万円)

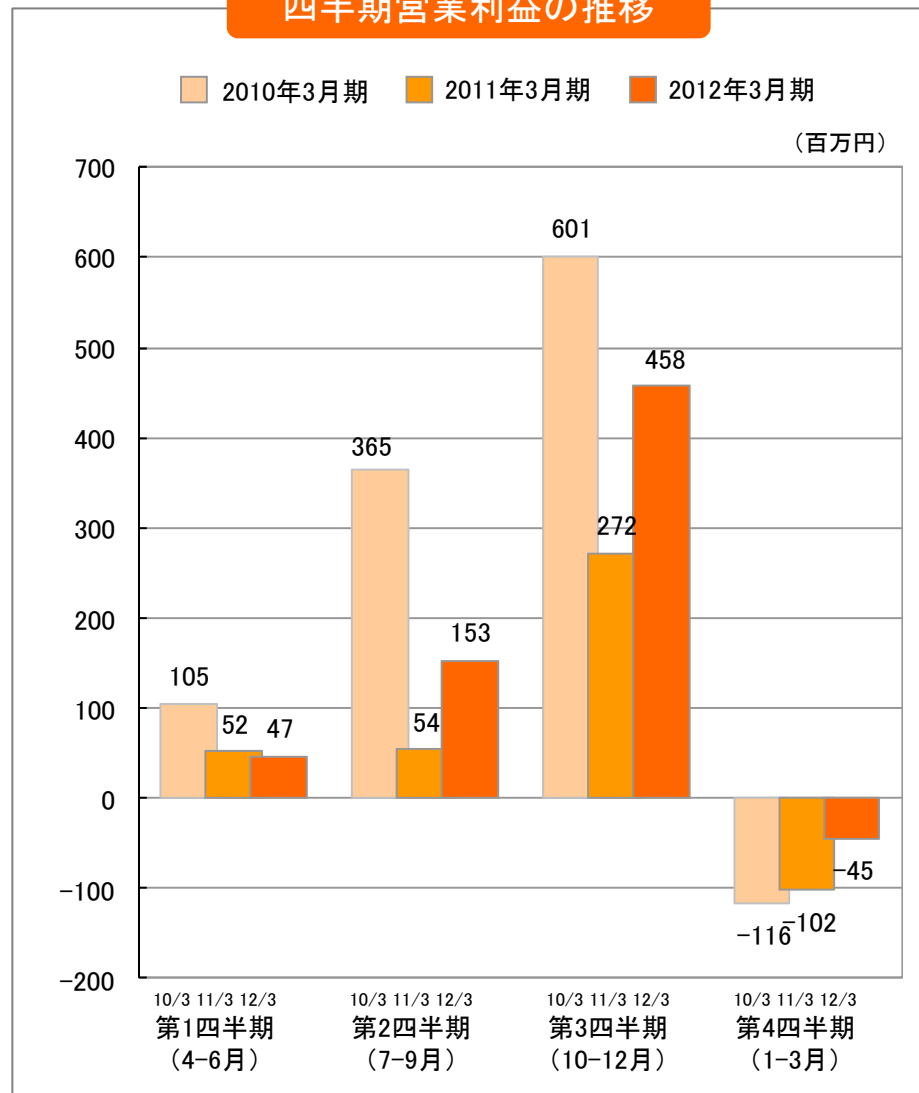
	2011年3月期	2012年3月期	
			前年増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲230	2,458	2,688
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲133	▲516	▲382
フリー・キャッシュ・フロー	▲363	1,942	2,306
財務活動によるキャッシュ・フロー	298	▲1,038	▲1,337
現金及び現金同等物の増減額	▲65	903	969
現金及び現金同等物の期首残高	1,911	1,845	▲65
現金及び現金同等物の期末残高	1,845	2,749	903

四半期業績の推移（売上高・営業利益）

四半期売上高の推移



四半期営業利益の推移

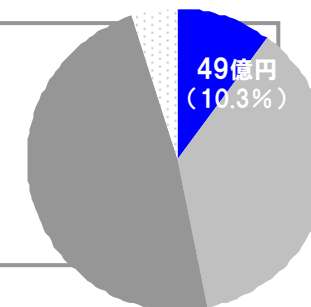


概況：低価格志向と消費低迷の環境下、単価下落・数量減少により減収減益

水産食品事業

売上高 **49億70百万円**（前期比20.8%減）

営業利益 **2億9百万円**（前期比41.7%減）



2012年3月期の状況

水産食品

- ・ 連結子会社の減少により減収
- ・ 消費者の低価格志向により競争激化
 - 販売単価の下落、数量減少による減収
 - 2013年3月期よりスリム化に着手

機能食品

- ・ エラスチンの拡販および新規機能素材の上市
 - … 一般市場における認知度アップ
- ・ 高齢者向けソフト食「ソフミート」
 - … 市場拡大を積極的に推進
- ・ 和菓子およびゼリーの売上拡大
 - … 新規商品、新シリーズの展開。新規企業への展開

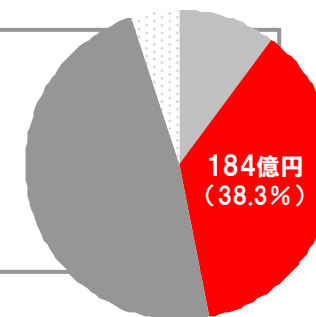
セグメントの状況（畜産食品事業）

概況：ギフト製品や既存製品の販売数量減少、販売単価下落により減収

畜産食品事業

売上高 184億95百万円（前期比 3.8%減）

営業利益 3億43百万円（前期比13.4%減）



2012年3月期の状況

食肉加工品

- ・ ギフト製品、既存製品の販売数量減少
- ・ 販売単価が下落
- ・ 生ハム製品回収発生

食肉

- ・ 牛肉は他県で放射性セシウムが検出されたことにより消費低迷
- ・ 自社ブランドの「霧島黒豚」を中心とした豚肉の拡販に努め、増収

調理食品

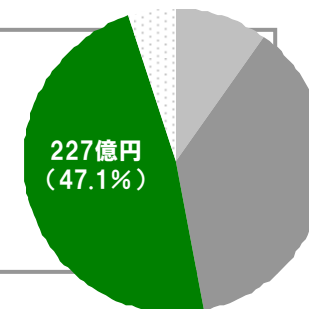
- ・ 業務用具材などの拡販により伸長

概況：採算性を重視した取り組みにより減収、主原料価格が安定的に推移したことにより増益

飼料事業

売上高 227億34百万円（前期比4.4%減）

営業利益 9億71百万円（前期比66.0%増）



2012年3月期の状況

養魚用飼料

- ・ハマチ用、タイ用EP飼料の拡販と既存取引先の強化により増収
- ・ツナッコ(マグロ稚魚用配合飼料)を製造販売開始(2011年8月)
- ・ツナ・フード(マグロ成魚用配合飼料)は、順調に拡販

水産物

- ・魚価低迷により、活魚の取扱いを減少(採算性重視)

畜産用飼料

- ・採算性を重視した取り組みにより減収
- ・ブロイラー用などの販売数量の減少により減収

畜産物

- ・「赤鶏さつま」を中心とした販売に取り組み、販売数量増加により増収

II

2カ年経営計画

2013年3月期～ 2014年3月期

経営理念

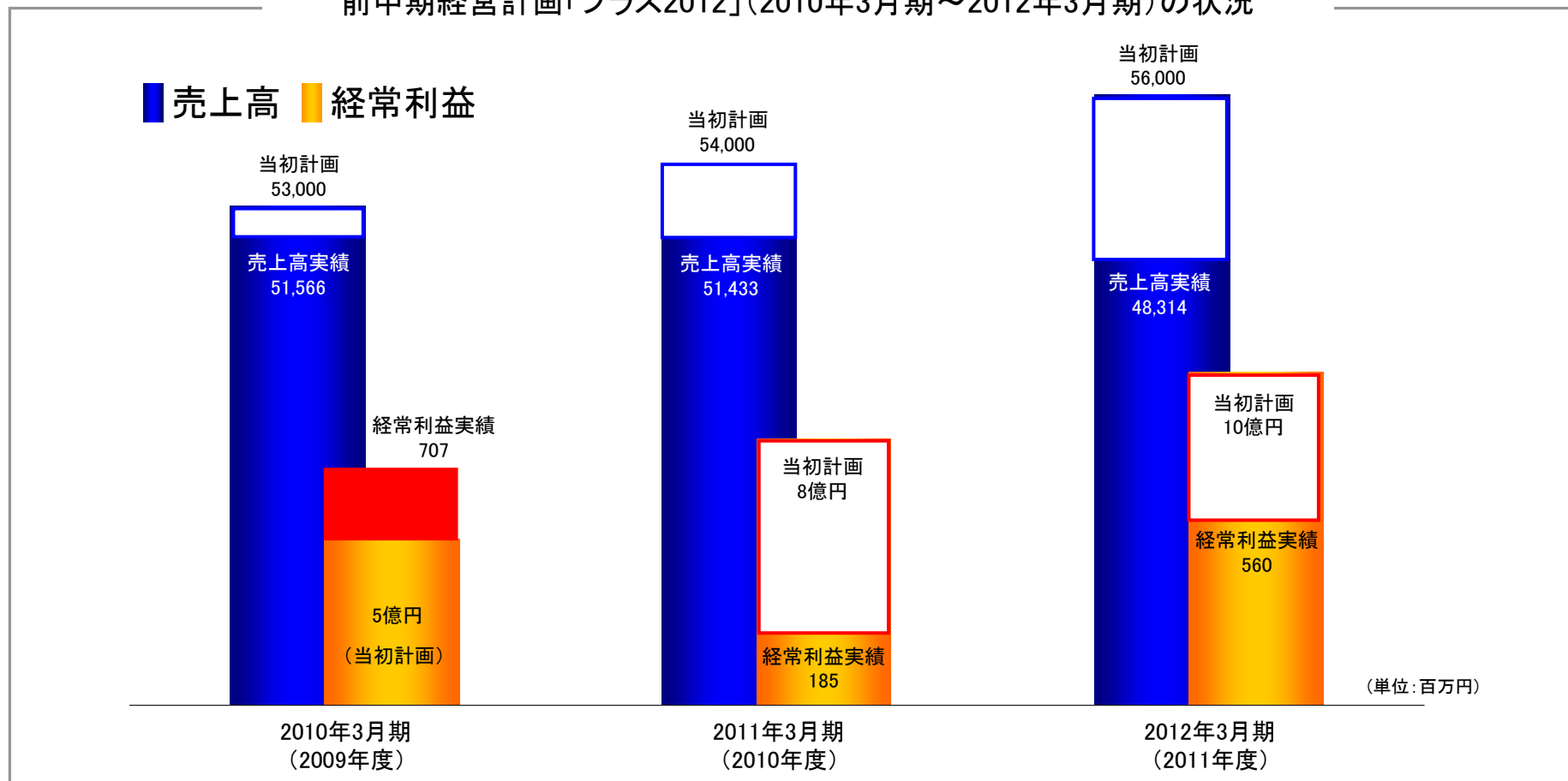
「売り手によし、買い手によし、世間によし、三方よし」を規範とし、「安全・安心」で「良質」な製品を提供することを通じて、豊かな食文化の実現に貢献する。

経営ビジョン

1. 経営資源の選択と集中により構造改革を進め、収益基盤の改善を図る。
2. 安定的な利益確保に向けて構造強化を図り、持続的な事業発展を目指す。

前中期経営計画「プラス2012」期間中における原材料価格の高騰や消費低迷により、収益が圧迫される状況にあった。こうした環境が続く中、消費者の安全・安心を担保し、持続的な発展を可能とするためには、収益基盤を改善する必要がある。そのためには、一時的な売上高減少を厭わずに過去の慣習や慣例と決別し、生産性や効率性をゼロベースで見直し、最適な生産体制を構築しなければならない。

前中期経営計画「プラス2012」(2010年3月期～2012年3月期)の状況



基本方針

可能な限りスリムで生産性の高い体制を構築することにより収益力を回復し、コスト競争力を確保することを基本戦略とする。

「構造改革」

対象工場の最適化により固定費の大幅削減を行う。ライン集約・要員削減を行い、一旦生産数量を落として収益基盤の改善を図る

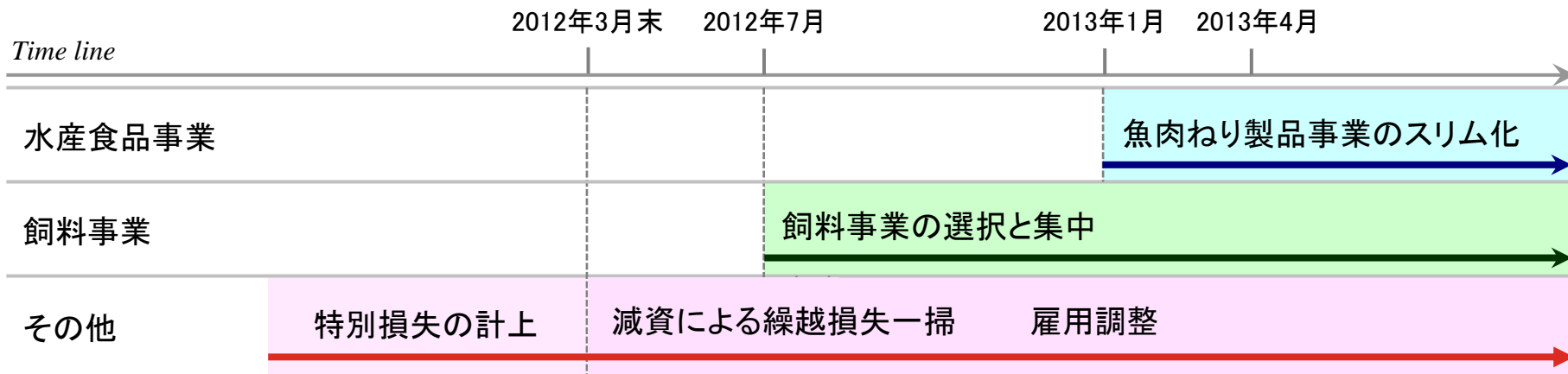
「コスト削減」

将来的には改めて売上げ拡大を目指すものとする。生産部門においては固定費を増加させないよう管理し生産力を高める。今後、コスト競争力と営業強化をもって利益増加を図る。

再構築対象

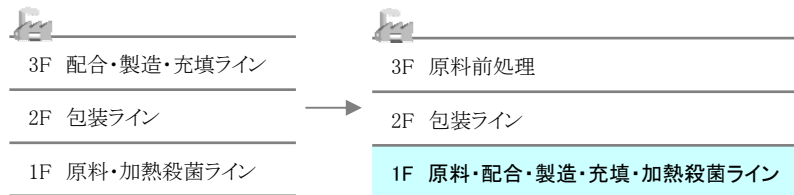
- ・ 食品下関第一工場
- ・ 飼料下関工場
- ・ 雇用調整(全社規模)

「選択と集中」「スリム化」を通じ、コスト競争力を確保



食品下関第一工場の取り組み

魚肉ねり製品の生産ライン集約

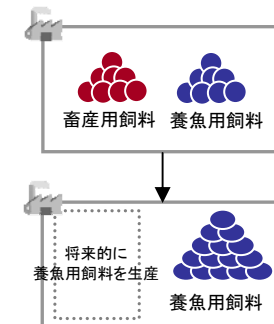


POINT

- ・ 生産ライン短縮による生産性向上
- ・ 生産数量適正化による固定費削減

飼料下関工場の取り組み

畜産用飼料の製造中止 ↓ 養魚用飼料への特化



POINT

- ・ 採算重視の製品選択＝固定費減
- ・ 将来的に養魚用飼料を拡大

水産食品事業

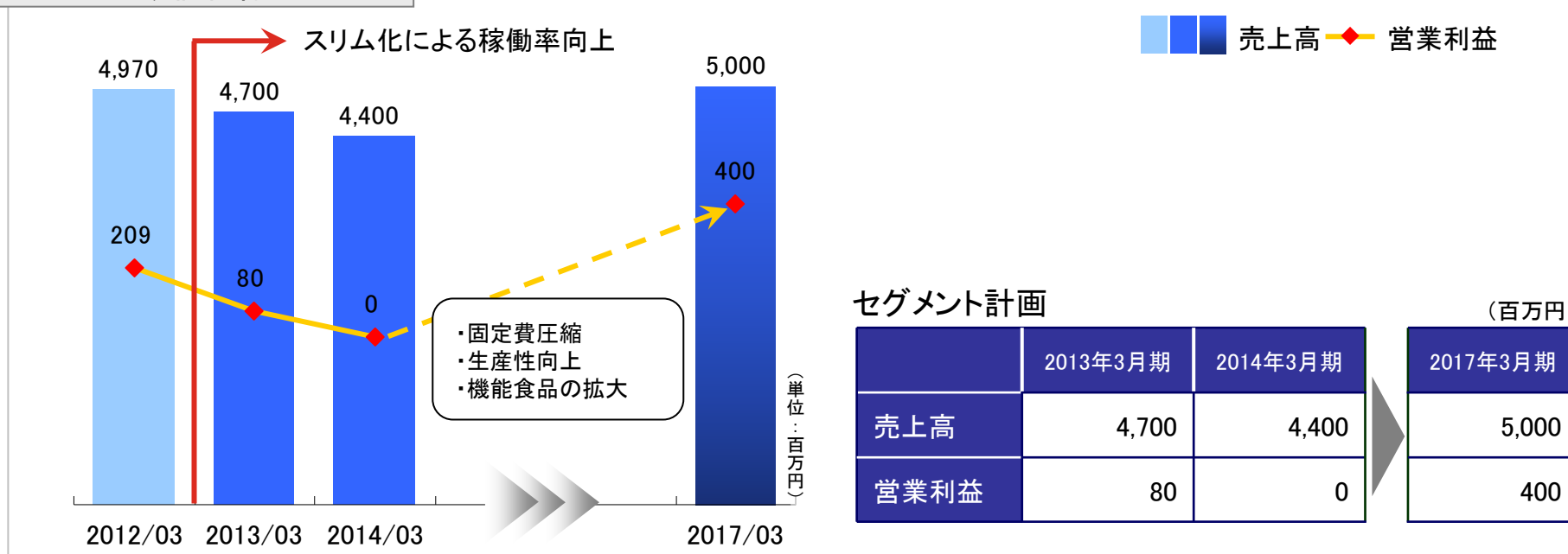
重点施策

- ・ 下関第一工場の生産ライン集約
- ・ 生産数量の適正化
- ・ 機能食品の拡大

魚肉ねり製品事業のスリム化

固定費圧縮・効率性向上

数値目標



水産食品事業

アクションプラン

魚肉ねり製品事業のスリム化

魚肉ねり製品事業は成熟事業と捉え、今後の市場規模縮小に備えてスリム化を行う。また事業構造転換の過渡期として数量圧縮へ前向きに取り組み、アイテム削減と効率化により、利益確保を目指す。

- ・ 下関第1工場の生産ライン集約による効率化
- ・ 生産数量の引き下げによる規模適正化
- ・ 固定費の圧縮
 - － 市場規模の縮小と設備老朽化への対応
 - － 最適な生産体制の構築

機能食品の拡大

市場の拡大を背景として、機能性食品素材や高齢者向け食品などの売上拡大、新商品開発に注力。

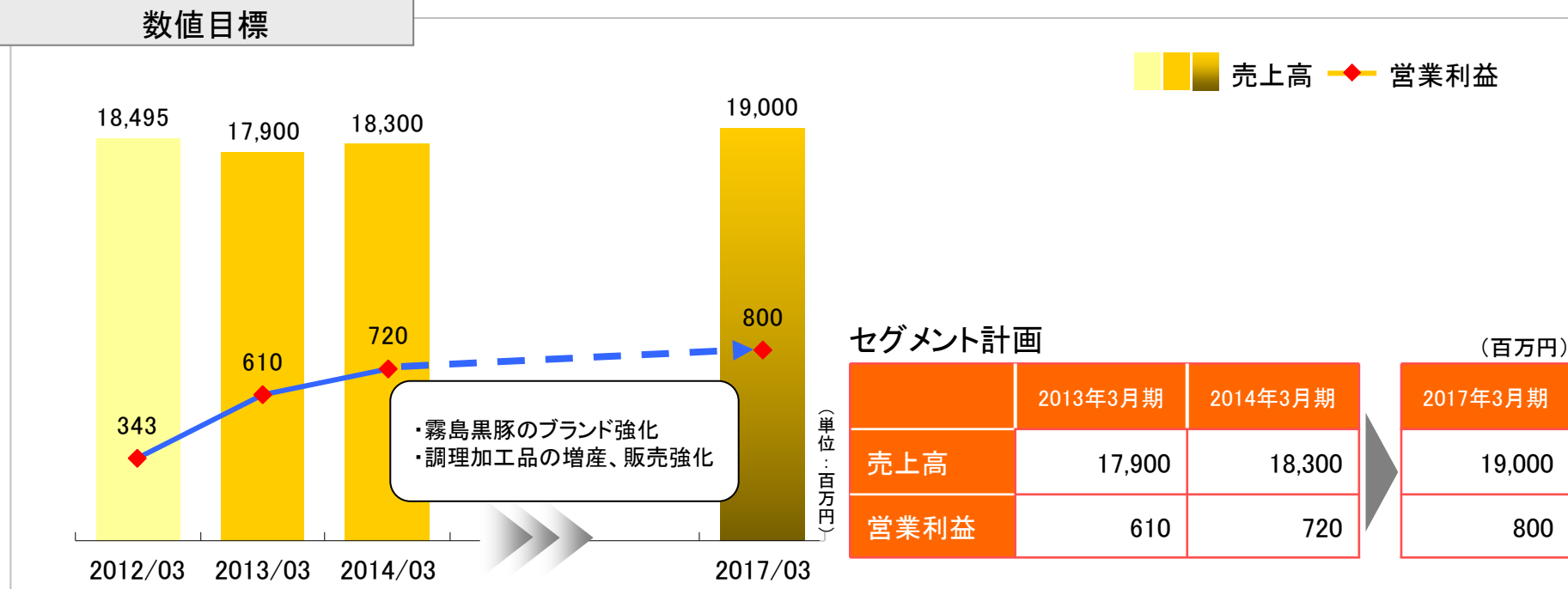
- ・ 関東・関西エリアを優先して拡販強化
- ・ 機能性素材(エラスチン・アスコフィラン等)のエビデンス構築による新市場の創出
- ・ 高齢者食、保健機能食品(ソフミート、和菓子)の販売拡大
 - － 和菓子ライン増設による販売加速
 - － 在宅介護市場への参入

畜産食品事業

重点施策

- ・霧島黒豚のブランド強化
- ・調理加工品の増産、販売体制の強化

数値目標



畜産食品事業

アクションプラン

消費動向の変化に迅速に対応し、収益力の強化を図る。

霧島黒豚のブランド強化

- ・ チルド販売の強化による安定利益の確保
- ・ 採算性を重視した販売強化

調理加工品の増産、販売強化

- ・ 林兼フーズ第二工場の全面リニューアル完了による加熱調理食品の生産能力拡大
また、これに伴う当社他工場、協力工場との連携強化による生産体制の構築
- ・ 量販店惣菜部門および外食業態向けへの展開強化

飼料事業

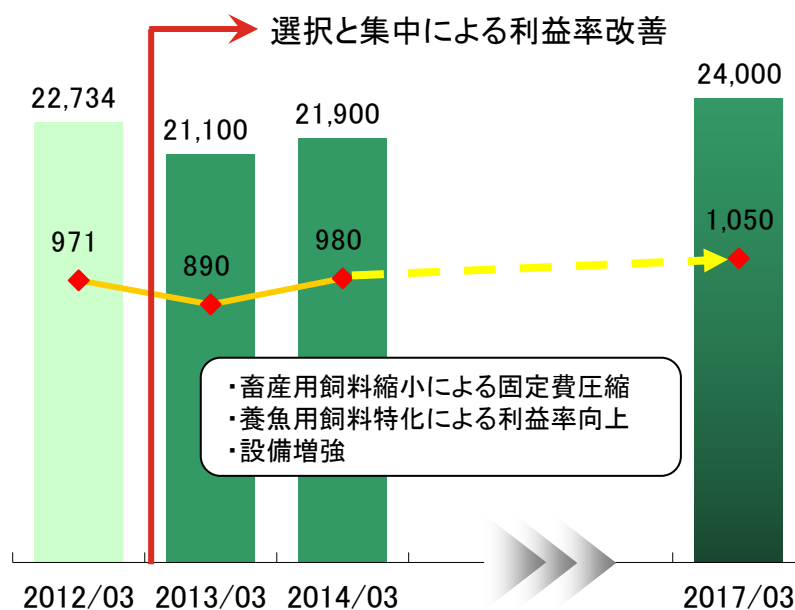
重点施策

飼料事業の選択と集中

- ・ 下関工場での畜産用飼料の製造中止
- ・ 下関工場は養魚用飼料に特化する

養魚用飼料拡大のための増強へ

数値目標



セグメント計画

	2013年3月期	2014年3月期	2017年3月期
売上高	21,100	21,900	24,000
営業利益	890	980	1,050

(百万円)

飼料事業

アクションプラン

下関工場での畜産用飼料の製造中止(6月)

養魚用飼料の製造販売に経営資源を集中させることで収益体制の再構築に取り組む。

- ・下関工場での畜産用飼料の製造は中止し他社へ製造委託 → 下関工場は養魚用飼料に特化
- ・志布志飼料株式会社(当社関連会社)での畜産用飼料製造は継続

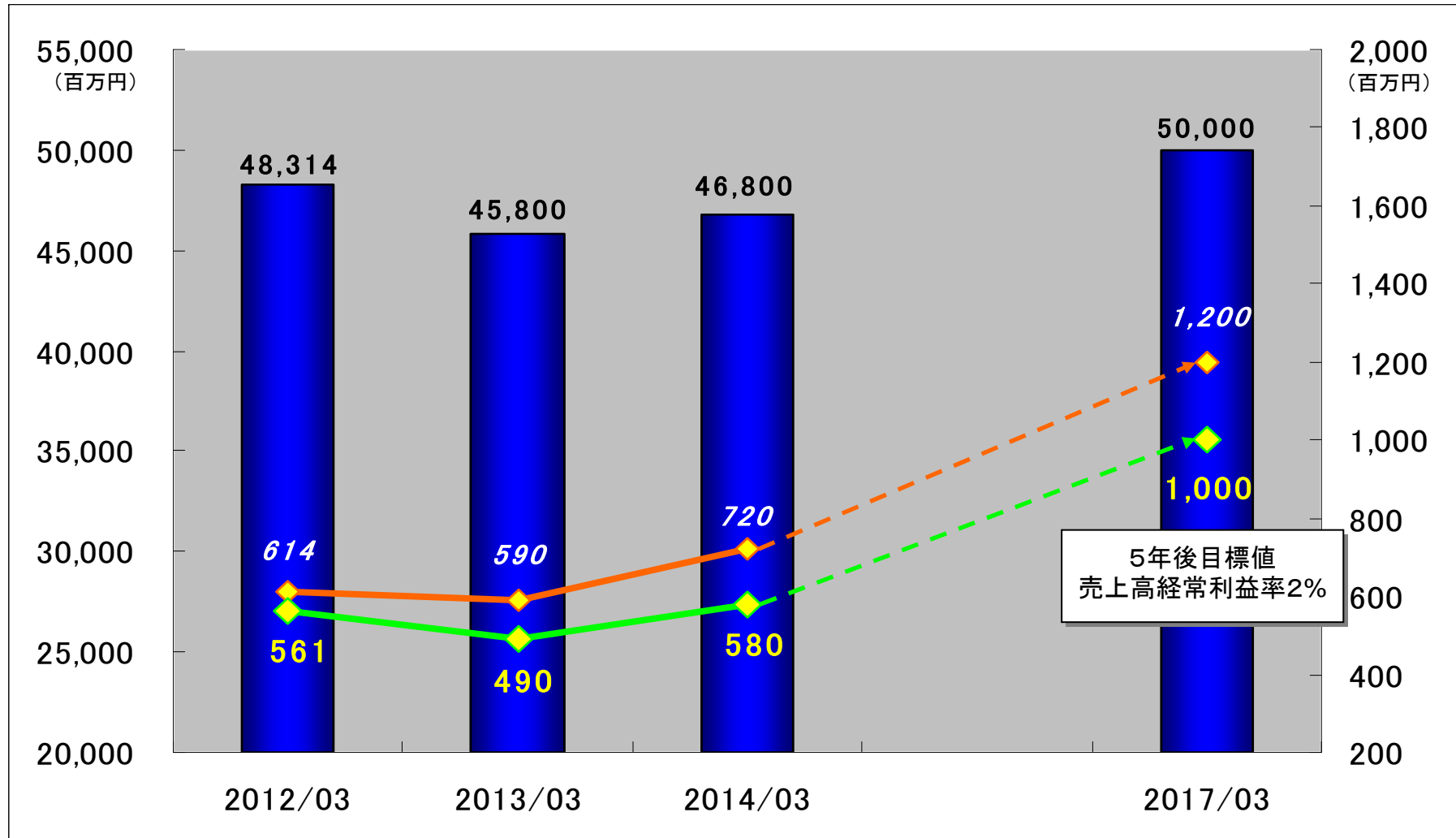
養魚用飼料への特化

養魚用飼料に特化することで、安定的な数量と利益を確保。

同時に、当社の技術を利用した差別化できる新商品の開発を推進することで将来的な収益源を確保する。

- ・設備増強
- ・受託製造の拡大
- ・マグロ用飼料などオンリーワン技術飼料の拡販
- ・魚粉事情に価格や成育が影響されにくい新時代飼料の普及・定着、新魚種用の開発

■ 売上高(左軸) ◆ 営業利益(右軸) ◆ 経常利益(右軸)



売上高・利益計画

(百万円)

	2012年3月期実績	2013年3月期計画	2014年3月期計画
売上高	48,314	45,800	46,800
水産食品事業	4,970	4,700	4,400
畜産食品事業	18,495	17,900	18,300
飼料事業	22,734	21,100	21,900
その他の事業	2,114	2,100	2,200
営業利益	614	590	720
水産食品事業	209	80	0
畜産食品事業	343	610	720
飼料事業	971	890	980
その他の事業	168	140	140
消去又は全社	▲1,078	▲1,130	▲1,120
経常利益	561	490	580
当期純利益	▲893	360	400

機能食品の拡大

ソフミート(ソフト食)

高齢者が増える国内市場において、ソフト食を開発・販売。
咀嚼困難な方の為の新しい介護食として拡大。

和菓子

和菓子としての完成度の高さだけでなく、鉄分・カルシウムを配合した保健機能食品、栄養機能食品としても販売。

→ 生産ラインを増設

エラスチン

魚類由来の有効成分を抽出。ドリンク、パウダー、サプリメント、他食品に配合することで素材としての可能性を追求。

素材としての可能性

美容関連素材：皮膚機能改善、向上(シワ、弾力性など)

循環器対応素材：血管機能の改善、向上

※ロコモティブシンドローム関連素材：靭帯、腱などの損傷予防

※ロコモティブシンドロームとは、主に加齢による運動器の障害のため、移動能力の低下をきたして、要介護となる危険の高い状態をさし、足腰の骨、関節、筋肉、靭帯、腱などの劣化が歩行困難をもたらす運動器症候群のことをいいます。

▼ソフト食(ソフミート使用)



▲和菓子のラインナップ

ハラール食品事業の展開

2010年12月

合弁会社OMAKANE SDN. BHD. 設立

2012年 4月

マレーシアでソーセージ(ハラール)の現地生産・販売を開始
3年後には、売上高20億円を目指す

マレーシアは唯一政府機関がハラール認証を行っています



ハラール食品(イスラム食品)とは、
イスラム法の下では、加工や調理に関し
て厳格な作法が要求されます。
イスラム法が遵守された食品がハラール
('許された'という意味)とされます。



▼クアラルンプールで開催された第9回国際ハラール見本市
(MIHAS2012)の様子
「魚肉と鶏肉を使用したプレーンタイプ」「チーズ入りタイプ」
「魚肉を使用したマレー料理オタオタ味」の3種類のソーセ
ージを出展



▲ マレーシアのナジブ首相による試食の様子
(マレーシア、サラワク州での展示会にて)

 林兼産業株式会社

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

IRお問い合わせ先

林兼産業株式会社 管理本部総務部

TEL 083-266-0210

IRサイト <http://www.hayashikane.co.jp/ir/index.html>